

## 認知症予防専門医に求められる MCI 診断後支援

浦上 克哉

鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座

疾患修飾薬の本邦での承認が迫ってきている。投与対象は軽度認知障害 (MCI) と軽度のアルツハイマー型認知症と考えられる。これまで、MCI は病気と考えられていなくて、症状改善薬の投与対象となっていなかった。このため、MCI の診断は、あまり積極的になされてこなかった、しかし、これからは MCI と診断される方が増えてくると想定される。診断された MCI の方が、すべて疾患修飾薬の投与対象となるわけではなく、また投与対象となっても薬剤による改善がみられない方もいる。これまで以上に MCI の診断後支援が重要となってくる。診断後支援でまず重要なことは MCI という診断を正しく告知することである。患者や家族は MCI を軽度の認知症と誤って理解していることが少なくない。MCI は可逆的な状態で、放置すれば認知症への進行の可能性が高いが正常に復帰できる可能性があることを正しく伝えることが重要である。生活習慣病の中でも高血圧、糖尿病、脂質異常症の認知機能に与える影響が報告されている。これらの病気を持っているだけで認知症になりやすいわけではなく、コントロールが不良であるとなりやすい。これらの疾患を有している MCI であれば、これらの疾患のコントロールを厳重に行うべきであり、そのことをしっかりと伝えて理解を得ることが求められる。さまざまな予防法が報告されているが科学的エビデンスのあるものをできる限り紹介することが望ましい。日本認知症予防学会のエビデンス委員会では科学的エビデンスのある予防法やサプリメントは推奨に値するものとする。自動車運転について認知機能の面からいえば MCI レベルなら可能であり、末永く安全運転ができるよう認知症予防のアドバイスをすべきと考える。成年後見制度については MCI レベルの方は任意後見制度の対象であり、認知症になってからの生活設計を前もって考える貴重な機会として紹介することも必要である。